一般社団法人 日本独文学会
Japanische Gesellschaft für Germanistik e.V.

ニュースレター2023 春号

JGG-Info-Blatt / Frühling 2023

まえがき

会員の皆様,

　この Info-Blatt で今期の理事会は最後になります。関係者の皆様，おつかれさまでした。

　理事会の負担を減らすという目標を掲げて今期理事会がスタートしましたが，目に見えて負担を減らすことはできなかったように感じています。むしろ理事会があるたびに特定の理事に負担がますます集中しました。

　研究発表会開催頻度に関してワーキンググループで答申をまとめ，会員アンケートにまでこぎつけることができました。アンケート結果は HP で閲覧できるようになっているかと思います。今後の日本独文学会の運営に役立てば幸いです。改革は待ったなしになってきていると思います。

　負担感は支部や役職によって大きなばらつきがあるようですが，ひとつ確実に言えることは，特定の会員にだけ負担が集中する現状は，日本独文学会の公平で持続的な存在を脅かしている，ということでしょう。会員数はこの 10 年で 1000 名ほど減少し，現在は 1400 人を切るあたりです。今後，毎年 50～70 名は定年等で学会員が減少し続け，会員数が 1000 人を切るのも時間の問題でしょう。

　理事選挙の投票数は 1400 名ほどの会員のなかで 200 人程度，9 票で理事に選出される，研究発表会開催頻度のアンケートの回答は 129 件。これが日本独文学会の現実です。この現実が今後改善されることを望みますが，それは高望みでしょうか…。

2023 年 4 月 30 日

井出万秀

日本独文学会会長

目　　次

まえがき

ご案内
第 5 回一般社団法人日本独文学会総会・春季研究発表会のご案内　1
交通と会場のご案内　8
アクセスマップ　9
2023 年春季研究発表会開催中の託児サービスについて　10
秋季研究発表会について
2023 年秋季研究発表会のご案内　11
Bekanntmachung der Herbsttagung 2023　12
研究会開催のための会場借用について　13
Zur Beantragung der Raumbenutzung　14
学会当日の受付用机・椅子の借用について　15
Zur Beantragung von Infotischen　16
会費納入について　17
ドイツ語教育部会総会のお知らせ　20
第 49 回語学ゼミナール開催のお知らせ　21
49. Linguisten-Seminar der JGG　23
DAAD からのお知らせ　26
ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ　29
一般社団法人日本独文学会岩﨑奨学金（出版助成）のお知らせ　31

報告
第 20 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果　33
日本独文学会 2022 年秋季研究発表会報告　34
第 48 回語学ゼミナール報告　35
日本独文学会研究叢書既刊一覧　40
2022 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告　41
2022 年度ドイツ語論文ワークショップ開催報告　43
支部報告　46
ドイツ語教育部会報告　56
ドイツ語学文学振興会より　59
大学院 Germanistik 関係博士論文題目　60

あとがき　61

第 5 回一般社団法人日本独文学会総会・春季研究発表会のご案内

会員各位

2023 年 4 月吉日
日本独文学会

皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

来る 6 月 3 日（土），6 月 4 日（日）の両日，明治大学駿河台キャンパスにおきまして，第 5 回社団法人日本独文学会総会・春季研究発表会を開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。研究発表会のプログラムは本ファイルに掲載してあります。

本研究発表会ではプログラム冊子の配布を行いません。当日は，本ファイルを印刷ないしは電子データとして閲覧可能にしてご持参ください。

参加費：会員 1,500 円，学生会員 1,000 円，非会員（含む学生）2,000 円
参加費は事前にお振込みください。詳細は別途，学会ホームページにてご案内いたします。

Bekanntmachung der 5. Vollversammlung und der Frühlingstagung der JGG e. V.

Liebe Mitglieder der JGG,

die 5. Vollversammlung und die Frühlingstagung der Japanischen Gesellschaft für Germanistik e. V. finden am 3. und 4. Juni 2023 an der Meiji Universität (Surugadai-Campus) statt. Wir freuen uns auf Ihre Teilnahme. Das Programm der Tagung finden Sie auf den folgenden Seiten.
Da es dieses Mal keine Print-Version des Programmheftes gibt, empfehlen wir, das Programm ausgedruckt oder in digitaler Form auf einem Ihrer Geräte mitzubringen.

Teilnahmegebühr:
– JGG-Mitglieder 1.500 Yen,
– JGG-Mitglieder (Studierende) 1.000 Yen,
– Nicht-Mitglieder (inkl. Studierenden) 2.000 Yen
Die Teilnahmegebühr ist im Voraus zu überweisen. Näheres wird auf der Homepage der JGG bekanntgemacht.

日 本 独 文 学 会

春 季 研 究 発 表 会

2023 年 6 月 3 日（土）・6 月 4 日（日）

第 1 日　午前 10 時より
第 2 日　午前 10 時より

会場　明治大学 駿河台キャンパス
リバティタワー

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1
E-Mail: tagung2023meiji@jgg.jp

参加費
会員 1,500 円
学生会員 1,000 円
非会員（含む学生）2,000 円

日 本 独 文 学 会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603
Tel./Fax: 03-5950-1147
E-Mail（メールフォーム）: http://www.jgg.jp/mailform/buero

第 1 日　6 月 3 日（土）

開会の挨拶（10:00～10:05）

A 会場（1103 教室）

明治大学　渡辺　　学
会　　長　井出　万秀

日本独文学会総会（10:05～11:30）

A 会場（1103 教室）

日本独文学会・DAAD 賞授賞式（11:40～12:10）

A 会場（1103 教室）

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会（12:15～13:15）

A 会場（1103 教室）

ドイツ語教育部会総会（12:45～13:15）

B 会場（1106 教室）

シンポジウム I（14:30～17:30）

A 会場（1103 教室）

近現代ドイツ抒情詩の「話者」再考――「リュリコロギー」の批判的受容に基づくケーススタディ

司会：小野寺　賢一

１．シュテファン・ゲオルゲ「前奏曲」における「天使」の詩学的機能
小野寺　賢一

２．ゲオルク・トラークル『選集 1909』における「抒情詩の〈私〉」の創造と解体
日名　淳裕

３．パンク詩人としてのロルフ・ディーター・ブリンクマン　　川島　建太郎

４．ルッツ・ザイラー『ペヒ＆ブレンデ』における一人称代名詞の再帰的・演技的な身体性　　金　志成

シンポジウム II（14:30～17:30）

B 会場（1106 教室）

『エリーザベト』変容　―「死の舞踏」vs「愛と死のロンド」―翻案ミュージカルの在り方をめぐって

司会：関根　裕子

１．ウィーン版「死の舞踏」　vs　日本版「愛と死のロンド」　関根　裕子
２．日本における海外ミュージカル　渡辺　芳敬
３．タカラヅカ版『エリザベート』の特徴　中本　千晶
４．舞台・DVD 製作現場における翻訳の問題点　高島　勲

口頭発表：文学 I（14:30～16:25）

C 会場（1113 教室）

司会：竹内拓史・畑一成

１．レッシング『ラオコーン』における自然模倣文学の否定　江口　大輔
２．ゲオルク・ビュヒマン『翼のある言葉』初期の編集史　佐伯　啓
３．隠者たちの白日夢　――E. T. A. ホフマンによるノヴァーリスの批判的受容　清水　恒志

ブース発表 I（14:30～16:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

D 会場（1114 教室）

Lernendenzentrierter Unterricht mit Portfolioarbeit　Nancy Yanagita
（共同発表者：Maria Gabriela Schmidt, Christian Steger, Martina Gunske von Kölln, Cezar Constantinescu）

ブース発表 II（16:30～18:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

D 会場（1114 教室）

オンライン教材を用いた発音指導および評価の方法について―学習者のワークシート分析から　中川　純子
（共同発表者：立川　睦美）

ポスター発表（13:00～14:30）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

E 会場（1116 教室）

Was können auf YouTube verfügbare Grammatik-Erklärvideos für den institutionellen Deutschunterricht in Japan leisten? Axel Harting

ドイツ語教育部会

「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示（13:00～17:00）

F 会場（1118 教室）

第 2 日　6 月 4 日（日）

シンポジウム III（10:00～13:00）

A 会場（1103 教室）

ドイツ語授業における文法規則の明示的指導の役割

司会：境　一三

１．ドイツ語授業における文法の扱い―第二言語習得研究および外国語教育論の視点から　太田　達也

２．ドイツ語学習者は文法学習をどのように捉えているのか
―コミュニカティブな授業における学習者の自己評価と文法学習の方法　梶浦　直子

３．ドイツ語授業における文法の扱い―教科書・参考書の執筆者の立場から　清野　智昭

４．文法の学び方をリセットする―コンセプトと実践　草本　晶

シンポジウム IV（10:00～13:00）

B 会場（1106 教室）

「ペストとドイツ文学――ヨーロッパ文化史の中で再考する」

司会：関口　裕昭

１．「ペストとドイツ文学――ウィーン文化史を中心に」　関口　裕昭

２．「デフォーと『ペストの記憶』」　原田　範行

３．「ゴットヘルフ『黒い蜘蛛』とペスト」　田村　久男

４.「シュティフター『瀝青焼き職人』と『御影石』における改作とペストの記憶」
出縄　祐介
５.「ホフマンスタール『バッソンピエール元帥の体験』における愛と死」
関根　裕子

口頭発表：文学 II（10:00～12:35）

C 会場（1113 教室）

司会：広沢絵里子・Tobias Schickhaus
１.「審美主義と野蛮の近接性」を求めて――トーマス・マン『ファウストゥス博士』におけるニーチェ批判とアドルノ音楽論の交点　渡邊　能寛
２. 初期ベンヤミンの女性像 ―『親和力』論におけるジンメル『ゲーテ』批判を手がかりに　寒河江　陽
３. Wut – Wahnwitz – Viren. Elfriede Jelineks Kritik des Opfer-Kults
Herrad Heselhaus

口頭発表：ドイツ語教育、文化・社会（10:00～11:55）

D 会場（1114 教室）

司会：Susanne Schermann・水野真紀子
１. Ich denke, was ich bin. Wie die Einstellung zu sich selbst die Lernmotivation beeinflusst.　Frank Nickel
２. *Gendern* im Deutschunterricht: Eine Umfrage unter DaFLehrenden in Japan
Ruben Kukulinski
（共同発表者：Ralph Degen, Elvira Bachmaier）
３. ヘッセの出版企画と日本へのまなざし―『日本の物語』から見る一側面
田中　洋

ポスター発表

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

E 会場（1116 教室）

閉会の挨拶（13:00～13:10）

A 会場（1103 教室）

明治大学　冨重　与志生

研究発表会期間中，上記のプログラムに加えて，書店・出版社等による書籍展示が行われます。

交通と会場のご案内

研究発表会場：明治大学駿河台キャンパス　リバティタワー10 階・11 階
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

最寄り駅：JR 中央線・総武線，東京メトロ丸の内線「御茶の水」駅
東京メトロ千代田線「新御茶の水」駅
都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線「神保町」駅
徒歩約 3～5 分

Informationen zum Tagungsort

Die Tagung findet auf dem Surugadai-Campus der Meiji Universität (in „Liberty Tower“, 10. u. 11. Stock) statt.
Adresse: 1-1 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8301

Die nächstgelegenen Bahnhöfe:
Ochanomizu (JR Chuo-Linie, Sobu-Linie, Tokyo-Metro Marunouchi-Linie)
Shin-Ochanomizu (Tokyo-Metro Chiyoda-Linie)
Jimbocho (Toei-Mita-Linie, Toei-Shinjuku-Linie, Tokyo-Metro Hanzomon-Linie)

Nähere Informationen unter URL:
https://www.meiji.ac.jp/cip/english/about/campus/surugadai.html

アクセスマップ / Standort

（明治大学 HP より抜粋。https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

2023 年春季研究発表会開催中の託児サービスについて
Kinderbetreuung während der Frühlingstagung 2023

対面学会再開に伴い，託児サービスを再開いたします。2017 年以降， 春季の総会・研究発表会開催中の本サービスは，一時保育等を各自ご利用いただき，その利用料金を学会が補助するかたちで運用しております。補助金をご希望の方は，以下の要領に従いお申し込みください。

託児場所：自宅近くなど，都合の良い一時保育施設をご利用ください。自宅でのベビーシッター等の利用も可能です。
託児期間：6 月 3 日（土）9:30～18:00，6 月 4 日（日）10:00～13:00
および託児場所と学会会場の往復に必要な時間
託児費用：学会が補助金として負担します。申請者多数の場合など，全額補助がむずかしくなる可能性もあります。あらかじめご了承おきください。
対象年齢：利用する託児施設の定めるところによります。ただし小学校 4 年生までに限ります。

申込締切：5 月 26 日（金）
申込先：kinder@jgg.jp

申し込みに際し，下記の事項をお知らせください。

1. 申込者の氏名・所属・住所・連絡先（メールアドレス）
2. 託児利用日，時間，託児場所と学会会場の間の所要時間
3. 利用する施設の名称・住所・電話番号
4. 託児料金の見積もり（メールのコピーなどでも結構です）

利用後に領収書を提出していただき，それにもとづいて補助金を支給します。なにかございましたら，上記のメールアドレスに事前にご相談ください。

※補助金の対象は学会員の学会参加のために限ります。

2023 年秋季研究発表会のご案内

下記の通り，2023 年秋季研究発表会を開催いたします。

期日： 2023 年 10 月 14 日（土），15 日（日）

会 場：京都府立大学下鴨キャンパス

〒606-8522　京都市左京区下鴨半木町 1-5

https://www.kpu.ac.jp/access/

研究発表をご希望の方は「発表申込書１（申込者情報）」（Excel 形式）をダウンロードし，「発表申込書２（発表概要）」（Word 形式）と共に，日本独文学会ホームページ(https://www.jgg.jp/) 左メニュー「研究発表申し込み」にアクセスし，「発表申し込みフォーム」よりお申込みください。その際，必ず「研究発表申し込み要領（2020 年 2 月 1 日改訂）」をご熟読ください。申し込み審査のガイドラインもそこに記載されています。

申し込み締め切り： **2023 年 7 月 2 日（日）**

申し込み先： **上記発表申し込みフォーム**

2023 年 3 月
日本独文学会理事会

Bekanntmachung der Herbsttagung 2023

Die Herbsttagung der JGG findet statt:

am Sa., 14. und So., 15. Oktober 2023

an der Kyoto Präfektur Universität, Shimogamo-Campus

Shimogamohangicho 1-5, Sakyo-ku, 606-8522 Kyoto, Japan

https://www.kpu.ac.jp/access/

Wenn Sie sich als Referent*in bewerben möchten, senden Sie uns bitte das ausgefüllte Antragsformular (Excel-Datei) und Ihr Exposé in Form einer selbst verfassten Word-Datei. Um sich anzumelden laden Sie bitte beides unter Anmeldeformular（発表申し込みフォーム） auf der JGG-Webseite hoch.

Detaillierte Informationen sowie alle notwendigen Upload- und Download-Links finden Sie unter Referatsanträge im linken Menü auf der JGG-Webseite (https://www.jgg.jp/).
Der deutsche Text folgt dem Japanischen.

Anmeldefrist: **So., 2. Juli 2023**
Anmeldung unter: siehe oben

März 2023
Vorstand der JGG

研究会開催のための会場借用について

2023 年秋季研究発表会の折に研究会開催のための会場の借用をご希望の場合は，下記の要領でお申し込みくださいますようお願いいたします。

記

１）申し込み方法

必要事項をご記入のうえ，　学会ホームページ上(**https://www.jgg.jp/**)「研究会開催のための会場借用申し込み」フォームよりお申し込みください。 なお，会場および開催形式の関係で，すべてのご希望には添えない場合がございます。

申し込み期限：2023 年 7 月 2 日（日）

２）会場借用の時間帯

借用可能な時間帯は，学会 2 日目 10 月 15 日（日）の午後（13:15～16:00）です。

３）会場使用料

教室の使用に際しましては一定の使用料をいただくことになります。料金については，使用教室のご案内とともに，日本独文学会事務局より開催約 1 ヶ月前にお知らせします。

◎ 商行為を行うことはできません。

◎ 詳細は研究会責任者にご連絡いたします。

2023 年 3 月
日本独文学会理事会

Zur Beantragung der Raumbenutzung

Vereinen oder Arbeitsgruppen der JGG kann auf Wunsch bei der JGG-Herbsttagung 2023 ein Raum zur Verfügung gestellt werden. Bei Interesse melden Sie sich bitte rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Gründen der begrenzten Anzahl der zur Verfügung gestellten Räume und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben. Bei der Raumbenutzung muss der Antragsteller mit entstehenden Kosten rechnen.

Anmeldefrist: So., 2. Juli 2023

Das Anmeldeformular finden Sie auf der JGG-Webseite (https://www.jgg.jp/) bei **Tagungen** unter dem Punkt **Zur Beantragung der Raumbenutzung bei der JGG-Herbsttagung**.

Bitte beachten Sie:

- Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.
- Sie werden nach Bearbeitung Ihres Antrags etwa einen Monat vor Tagungsbeginn über Einzelheiten wie z. B. Informationen zu den Räumen und entstehende Gebühren benachrichtigt.

März 2023
Vorstand der JGG

学会当日の受付用机・椅子の借用について

2023 年秋季研究発表会の会場において，受付用に机・椅子の借用をご希望の場合は，下記の要領でお申し込みくださるようお願いいたします。なお，会場および開催形式の関係で，すべてのご希望には添えない場合がございます。

記

申し込み方法

学会ホームページ上の「学会当日の受付用机・椅子の借用申し込み」フォームよりお申込みください。

申し込み期限：**2023 年 7 月 2 日（日）**

◎ 商行為を行うことはできません。

◎ 詳細は団体・研究会の責任者にご連絡いたします。

2023 年 3 月
日本独文学会理事会

Zur Beantragung von Infotischen

Vereine oder Arbeitsgruppen der JGG können auf der JGG-Herbsttagung 2023 einen Infostand (mit Stühlen) aufstellen. Bei Interesse melden Sie sich bitte rechtzeitig im Büro der JGG! Aus Platzgründen und je nach Gegebenheiten des Veranstaltungsortes können unter Umständen nicht alle Wünsche berücksichtigt werden oder es kann Einschränkungen geben.

Anmeldefrist: So., 2. Juli 2023

Das Anmeldeformular finden Sie im linken Menü auf der JGG-Webseite (https://www.jgg.jp/) bei **Tagungen** unter dem Punkt Zur Beantragung von Infotischen auf der JGG-Frühlingstagung.

Bitte beachten Sie:

- Geschäftliche Transaktionen sind nicht gestattet.
- Nach Bearbeitung der Anmeldung wird der Antragsteller über die Einzelheiten benachrichtigt.

März 2023
Vorstand der JGG

会費納入について

会員の皆様におかれましては，すみやかな会費納入にご協力いただきありがとうございます。

事務局では会員お一人お一人の会費ご納入に関して，年間を通じ必要に応じてご連絡を差し上げています。その際はご理解，ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また，以下の点をご確認ください。

【会費割引制度】

前年度末までに 80 歳になられた方，常勤職をお持ちでない方，学生の方は，ご本人からのお申し出によって，年会費の割引を受けられます。会費規程をご確認の上，事務局までお申し出ください。

【口座自動振替によるご納入】

口座自動振替のお申込みは随時受け付けています。まだお申込みでない方は是非ご検討ください。申込書をお持ちでない方は事務局までご連絡ください。お申込みくださった時点でその年度の手続き締切りに間に合わなかった場合は，自動的に次年度開始の扱いとなります。その年の年会費は振込にてご納入くださるようお願い致します。

2023 年度振替日は 7 月 3 日（月）ですので，すでにご登録の方は事前に口座残高をお確かめいただけますと幸いです。また，振替口座等の変更や年会費割引のお申し出は 4 月末までに事務局にご連絡ください。振替日は年に一度のみです。7 月 3 日（月）に振替ができなかった場合は，郵便振込をお願いしています。

【郵便振込によるご納入】

口座自動振替をお申込みいただいてない方には，5 月，6 月の間に学会年会費納入のお願いと払込取扱票をお送りする予定です。

また，2023 年 6 月 3 日（土），4 日（日）明治大学で開催される春季研究発表会の会場で，研究発表会参加受付とは別に学会事務局の受付が設置されますので，口座自動振替をお申込みでない方は，そちらでお支払いいただくことも可能です。

以上，よろしくお願い申し上げます。ご不明の点，ご質問は事務局（TEL./FAX : 03-5950-1147，Mail フォーム : http://www.jgg.jp/mailform/buero/）までお問い合わせください。

日本独文学会

一般社団法人日本独文学会会費規程

（目的）

第１条　この規程は，定款第７条の規定に基づき，入会金及び会費の納入に関し，必要な細則を定めるものとする。

（入会金）

第２条　会員は入会金として1,000 円を納入しなければならない。

（入会金の納期）

第３条　入会金は，この法人から入会承認の通知を受けた日から30日以内に納入しなければならない。

（会費）

第４条　会員は，次の会費（年額）を納入しなければならない。

正会員　　10,000 円

賛助会員　　30,000 円（学術交流団体など非営利団体の場合10,000円）

（会費の納期）

第５条　会員は，当該事業年度開始の7月末日までに，会費年額の全額を納付しなければならない。

（会費の減免）

第６条　4月1日現在で常勤職を持たない正会員の当該年度会費は，本人の申告に基づいて8,000円とする。

２　4月1日現在で大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する正会員の当該年度会費は，本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は，6月1日までに学生証ないしはそれに相当する証明書のコピーを郵送もしくはファックスで学会事務局に提出することによって行うものとする。

３　4月1日現在で満80歳以上の正会員の年度会費は，本人の申告に基づいて5,000円とする。申告は6月1日までに行うものとする。

４　会費の減免は申告が受理された年度から適用し，遡って適用　されることはない。

５　常勤職を持たない正会員が常勤職に就いた場合は，身分が変　わった直後の4月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

６　大学・大学院およびこれに準ずる教育・研究機関に在学する　正会員の身分に変更があった場合は，身分が変わった直後の4 月20日までに身分の変更を学会事務局に届け出るものとする。

（使用目的）

第８条　入会金及び会費は次の各号に定める事項に使用する。

(1)　本会の運営

(2)　本会の機関誌等の発行

（細則）

第９条　この規程に定めるもののほか，この規程の実施に必要な事項は，理事会の決議により別に定めることができる。

（改廃）

第１０条　この規程の改廃は，総会の決議による。

附　則

この規程は，２０１９年４月１日から施行する。

ドイツ語教育部会総会のお知らせ

日時：2023 年 6 月 3 日（土）12 時 45 分～13 時 15 分
会場：明治大学駿河台キャンパス　B 会場（1106 教室）
議題

I　　報告事項

1）2022 年度活動報告
2）その他

II　　審議事項

1. 2022 年度決算報告
2. 2023 年度予算について
3. 監事嘱任について
4. その他

III　　会員からの意見開陳

第 49 回語学ゼミナール開催のお知らせ

2023 年 2 月

日本独文学会第 49 回語学ゼミナールを下記の要領で開催いたします。今回はドイツ語における屈折や語形成といった形態的諸現象の通時的変化を取り上げます。形態的な変化は通常規則性があるものとして捉えられますが，そこにはしばしば「例外」として不規則なパターンが存在します。今回のゼミナールでは特にそのような不規則性がドイツ語においてどのように生じ，その背後にはどのような動機や機能があるのかに焦点が置かれる予定です。また，例年どおり参加者による研究発表も歓迎します。皆様の積極的なご参加を心よりお待ち申し上げます。

※感染症拡大の状況次第で開催要領に変更があり得ます。学会 HP の最新情報にご注意ください。

記

総合テーマ　Morphologischer Wandel im Deutschen: Entstehung und Funktion morphologischer Irregularität

招待講師　Damaris Nübling 教授（マインツ大学）
※ご経歴や業績等についてはこちらをご参照ください。
https://www.germanistik.uni-mainz.de/abteilungen/historische-sprachwissenschaft-des-deutschen/univ-prof-dr-damaris-nuebling/

期　　間　2023 年 8 月 28 日（月）～ 8 月 31 日（木）の 4 日間

会　　場　近畿大学東大阪キャンパス
〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1
https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/higashi-osaka/

定　　員　40 名

参 加 費　1 万円（会員），1 万 2 千円（非会員）
※宿泊は各自で手配していただきます。申し込み後に近隣のホテルをご案内します。
※学生および専任職を持たない会員については，所属機関等から出張費等の支援を受けていないことを条件に，参加費補助（5 千円）と宿泊費補助（1 万円を予定）を行います。加えて，遠方からの参加の場合，旅費の補助も検討します。

※中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は，略歴および主要業績表を提出してください。参加費は会員と同様です。

申込方法

以下のフォーム（外部リンク：Google Form）にアクセスし，必要事項をご記入の上，参加申込を行ってください。

LS2023 Anmeldeformular：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdByE5xpjlL0FgBFdxs4jibjzXCE8Hna5M5ddyesVnZ7O4Q7w/viewform?usp=sf_link

申込締切　2023 年 6 月 11 日（日）

問合せ先　語学ゼミナール実行委員会（linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com）

その他

- 参加申込みの承認は，日本独文学会理事会にて行われます。参加者正式決定の通知は 6 月下旬～7 月上旬を予定しています。
- 研究発表を希望される方は，ドイツ語 250 語程度のアブストラクトを添付してください。上述の参加者決定後，より詳細な発表要旨を提出していただきます。発表の採否は実行委員会にご一任願います。
- ゼミナール終了後，Nübling 教授による講演会の開催を希望する大学を募集します。Nübling 教授からは講演可能なテーマとして，以下のものが提案されています：
  1) Prinzipien des morphologischen Wandels
  2) Der verbale Ablaut lebt: Zur Genese und Funktion einer 8. Ablautreihe
  3) Belebtheit in der Nominalmorphologie
  4) Seminararbeit oder Seminarsarbeit? Wegen dem oder wegen des? Grammatische Zweifelsfälle als Indizien für Sprachwandel
  5) Von der Stimme bis in die Syntax und Semantik: Themen der deutschen Genderlinguistik
  6) Was hat Genus mit Geschlecht zu tun? Befunde aus dem Deutschen und einigen Dialekten

  講演会開催をご希望の方はゼミナールの申込締切日までに実行委員会にお申し出ください。その際，可能な限り謝金の支払いをご検討いただければ幸いです。なお，講演会場までの交通費や開催地でのお世話を講演会主催者にご

負担いただく場合がございます。詳細はゼミナール実行委員会にご相談ください。また，講演会開催や講演テーマ等の最終決定は，ゼミナール実行委員会にご一任願います。

日本独文学会・語学ゼミナール実行委員会
宮下博幸（委員長）

49. Linguisten-Seminar der JGG

Osaka, 28. Aug. – 31. Aug. 2023

Das 49. Linguisten-Seminar der Japanischen Gesellschaft für Germanistik wird dieses Jahr in Osaka im folgenden Rahmen stattfinden. Über eine zahlreiche Teilnahme würden wir uns sehr freuen.

*Coronabedingte Änderungen vorbehalten. Achten Sie auf die aktuellen Informationen auf der JGG-Webseite.

1. **Rahmenthema:** Morphologischer Wandel im Deutschen: Entstehung und Funktion morphologischer Irregularität

2. **Gastdozentin:**

   Prof. Dr. Damaris Nübling (Johannes Gutenberg-Universität Mainz)
   https://www.germanistik.uni-mainz.de/abteilungen/historische-sprachwissenschaft-des-deutschen/univ-prof-dr-damaris-nuebling/

3. **Termin:** Montag, 28. August bis Donnerstag, 31. August 2023

4. **Ort:** Kindai University, Higashi-Osaka Campus
   Kowakae 3-4-1, Higashi-Osaka, Osaka 577-8502
   https://www.kindai.ac.jp/about-kindai/campus-guide/higashi-osaka/

5. **Max. Teilnehmerzahl:** 40

6. **Anmeldung:**
   Bewerbung per Google Form „LS2023 Anmeldeformular“:
   https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdByE5xpjlL0FgBFdxs4jibjzXCE8Hna5M5ddyesVnZ7O4Q7w/viewform?usp=sf_link
   *Interessenten ohne JGG-Mitgliedschaft werden gebeten, neben der Anmeldung ihren akademischen Werdegang sowie die Liste ihrer wichtigsten Publikationen in PDF-Format nachzureichen. Bei Nicht-Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundschaftlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Nachbarländern ist zudem eine Empfehlung durch ein JGG-Mitglied in PDF-Format erforderlich. Bei Fragen wenden Sie sich an den Organisationsausschuss per unten stehende E-Mail-Adresse.

7. **Teilnahmegebühr:***
   10.000 Yen (bei JGG-Mitgliedschaft oder Mitgliedschaft zu den mit der JGG in freundlicher Verbindung stehenden germanistischen Verbänden in asiatischen Ländern) bzw. 12.000 Yen (ohne JGG-Mitgliedschaft) sind a.O. zu zahlen.
   *Wir bitten Sie, das Hotel selbst zu buchen. Informationen zu Hotels in der Umgebung werden wir Ihnen nach der Anmeldung zusenden. Für Studierende sowie Teilnehmende ohne feste Anstellung sind unter Umständen Gebührenermäßigungen, Übernachtungs- und Reisekostenzu-schüsse möglich.

8. **Anmeldeschluss:** Sonntag, 11. Juni 2023
   Die Auswahl der Teilnehmenden bleibt dem JGG-Vorstand vorbehalten.

Vortragsbeiträge zu allgemein linguistischen Themen

Beim Linguisten-Seminar besteht für die Teilnehmer*innen auch die Möglichkeit, ein etwa 30-minütiges Referat zu allgemein linguistischen Themen zu halten. Für die Anmeldung eines Referats (ebenfalls bis zum 11. Juni 2023) ist die Angabe des geplanten Titels sowie die Zusendung eines Abstracts (ca. 250 Wörter) erforderlich. Die Auswahl der Beiträge bleibt dem Organisationsausschuss vorbehalten.

Zusätzliche Veranstaltung von Vorträgen des Gastdozenten

Wir bitten außerdem um reges Interesse an weiteren Einladungen von Prof. Dr. Nübling für

zusätzliche Vorträge an Ihren Universitäten nach dem Abschluss des Linguisten-Seminars. Dafür wurden von Prof. Dr. Nübling folgende Themenbereiche vorgeschlagen:

1) Prinzipien des morphologischen Wandels
2) Der verbale Ablaut lebt: Zur Genese und Funktion einer 8. Ablautreihe
3) Belebtheit in der Nominalmorphologie
4) Seminararbeit oder Seminarsarbeit? Wegen dem oder wegen des? Grammatische Zweifelsfälle als Indizien für Sprachwandel
5) Von der Stimme bis in die Syntax und Semantik: Themen der deutschen Genderlinguistik
6) Was hat Genus mit Geschlecht zu tun? Befunde aus dem Deutschen und einigen Dialekten

Anmeldungen dazu werden ebenfalls bis zum 11. Juni 2023 angenommen. Honorarzahlungen sind nicht erforderlich, aber durchaus willkommen. Unter Umständen kann es vorkommen, dass die Reisekosten zu den Vortragsorten zu Lasten der einladenden Institution gehen. Um Verständnis bitten wir auch dafür, dass die Entscheidung über die Vortragsorte, -themen u.Ä. letztendlich beim Organisationsausschuss des Linguisten-Seminars liegt.

Organisationsausschuss des 49. Linguisten-Seminars
Hiroyuki Miyashita (Leitung)
E-Mail: linguistenseminar [_AT_] googlegroups.com

DAAD からのお知らせ

①夏期ドイツ語研修奨学金（HSK）の今年の募集決定

昨年，ドイツ本部の予算削減の影響で停止されていた HSK ですが，今年は募集されることが決まりました。本奨学金は，夏期にドイツの大学で開講される外国人向けのドイツ語コース（約 1 ヶ月間）に参加される際のコース費用や旅費の補助にご使用いただけるものです。募集開始は 9 月中旬頃を予定しており，合格された方は 2024 年の夏に希望するドイツ語コースにご参加頂けます。詳細は今後 DAAD の SNS やウェブサイトでお知らせいたしますので，お待ち下さい。

②【4 月 7 日（金）開催】YouTube ライブ・ドイツ留学トーク特別編

ドイツの学生生活はどんな感じ？日本とドイツの文化の違いで興味深いのは？4 月 7 日（金）18:00 から配信の YouTube ライブでは，東京事務所でインターンをしているドイツ人学生が日本語でトーク！視聴者の皆さんとの質疑応答も予定しています（ドイツ語や英語での質問も大歓迎！）。予約や登録は不要ですので，ドイツでの学生生活について聞いてみたいという学生さんがいらっしゃいましたら，どうぞご周知ください。

詳細はこちら：https://www.daad.jp/ja/event/youtubelive230407/

③【4 月 27 日（木）開催】German Research Fair - ドイツ研究フェア

ドイツの大学や研究機関で研究したい，ドイツの大学の博士課程，ポスドク，奨学金について知りたい方必見！オンラインで開催の「German Research Fair—ドイツ研究フェア」に参加して，大学や研究機関，助成機関の担当者と直接話してみませんか？4 月 27 日開催のオンラインフェアでは，多数のドイツの有名大学・研究機関，助成機関が参加予定。ダウンロード可能な資料が豊富に提供されるほか，当日開催される各種オンラインセミナーへの参加や，大学や研究機関の担当者と 1 対 1 のチャットでのやり取りも可能です。ドイツへの研究留学に興味がある方がいらっしゃいましたら，どうぞご周知ください。詳細と登録はこちら：https://www.dwih-tokyo.org/ja/event/fair/

④【6 月 24 日（土），25 日（日）開催】欧州留学フェア（EHEF）

今年で 11 回目を迎える欧州留学フェアは，3 年ぶりに欧州からの大学関係者を日本に招待して大規模開催となります。約 70 機関が東京（24 日，法政大学）と京都（25 日，同志社大学）でブースを出し，参加者は直接留学相談を受けることができます。ドイツからは 8 大学が参加の他，ゲーテ・インスティトゥートと DAAD

も出展致します。また，オンラインで事前に各参加機関の資料をダウンロードできる他，6 月 19 日の週からはテーマに応じたウェビナーも開催予定です。詳細は今後以下のサイトから随時アップデートされる予定です。
詳細：https://www.ehef-japan.org/

Neuigkeiten vom DAAD

1. Hochschulsommerkursstipendien (HSK) werden in diesem Jahr wieder ausgeschrieben

Die HSK-Stipendien, die im vergangenen Jahr aufgrund von angekündigten Haushaltskürzungen ausgesetzt wurden, werden 2023 wieder ausgeschrieben. Das Stipendium kann zur Deckung von Kursgebühren und Reisekosten für ausländische Studierende verwendet werden, die im Sommer einen Deutschkurs (ca. ein Monat) an einer deutschen Hochschule besuchen. Die Ausschreibung startet voraussichtlich Mitte September und erfolgreiche Bewerberinnen und Bewerber können im Sommer 2024 an einem Deutschkurs ihrer Wahl teilnehmen. Weitere Informationen werden in den sozialen Netzwerken und auf der Website des DAAD veröffentlicht.

2. YouTube Live – Ryugaku-Talk, Freitag, 7. April

Wie ist das Studentenleben in Deutschland? Welche kulturellen Unterschiede zwischen Japan und Deutschland treten im Uni-Alltag auf? In der YouTube-Live-Sendung am 7. April (Fr.) ab 18:00 Uhr wird eine deutsche Studentin, die gerade ein Praktikum beim DAAD Tokyo absolviert, auf Japanisch von ihrem Studium in Deutschland berichten. Außerdem gibt es eine Fragerunde mit dem Publikum (auch Fragen auf Deutsch oder Englisch sind willkommen). Eine Anmeldung ist nicht erforderlich. Wenn Sie Studierende kennen, die gerne mehr über das Studentenleben in Deutschland erfahren möchten, geben Sie diese Information bitte weiter. Weitere Informationen: https://www.daad.jp/ja/event/youtubelive230407/

3. German Research Fair, Donnerstag, 27. April

Ein Pflichttermin für alle, die einen Forschungsaufenthalt in Deutschland machen und sich über Stipendien- und Forschungsmöglichkeiten für PhDs und Postdocs informieren möchten: Bei der Online-Messe "German Research Fair" können Teilnehmende direkt mit Vertretern von Hochschulen, Forschungseinrichtungen und Förderorganisationen per Chat

oder Videochat kommunizieren. Auf der Online-Messe werden zahlreiche renommierte deutsche Hochschulen, Forschungseinrichtungen und Förderorganisationen vertreten sein. Neben vielseitigen Materialien zum Download können Sie an diesem Tag auch an Online-Seminaren der einzelnen Institutionen teilnehmen.
Bitte teilen Sie diese Informationen mit allen, die sich für einen Forschungsaufenthalt in Deutschland interessieren könnten: https://www.dwih-tokyo.org/ fair/

4. European Higher Education Fair (EHEF), 24.-25. Juni

Zum ersten Mal seit drei Jahren werden Hochschulvertreter aus Europa wieder zur European Higher Education Fair (EHEF) nach Japan kommen. Rund 70 Institutionen werden in Tokyo (24. Januar, Hosei Universität) und Kyoto (25. Januar, Doshisha Universität) mit Ständen vertreten sein, an denen sich die Teilnehmer direkt über ein Studium in Europa beraten lassen können. Neben acht deutschen Hochschulen sind auch das Goethe-Institut und der DAAD mit einem Stand vertreten. Zusätzlich zu den Materialien, die von jeder teilnehmenden Institution vorab online heruntergeladen werden können, werden ab der Woche vom 19. Juni themenbezogene Webinare angeboten. Weitere Details werden laufend aktualisiert unter:
https://www.ehef-japan.org/

ゲーテ・インスティトゥート奨学金のお知らせ

ゲーテ・インスティトゥート（ドイツ文化センター）は，大学・高等専門学校・高等学校のドイツ語教育担当教員を対象に，ドイツ語教員向け奨学金プログラムを実施しています。 **2024 年度募集予定の**プログラムは以下の通りです。

1. ドイツ語教員のためのランデスクンデ・教授法ゼミナール（2 週間)
2. ドイツ語教員のための語学コース（2 週間）
3. ドイツ語教員養成者のためのゼミナール

*　オンラインまたは現地での実施，またはその組み合わせ
*　ドイツで実施研修期間中の研修費用がゲーテ・インスティトゥートより支給されます。ドイツで実施の場合はそれに加えて宿泊費全額，ならびに旅費の補助金が支給されます。

< プログラム応募資格 >
大学または高等学校，高等専門学校でドイツ語を教えている，またはドイツ語教員養成に携わっている方のうち，次の条件を満たす方

- 過去数年間にドイツ政府の奨学金を受けていない
- これまでドイツ語教育とその促進に貢献しており，研修終了後少なくとも数年間，ドイツ語教育に携る予定である
- 研修で得た知識を，今後のドイツ語教育に役立つようフィードバックする意志がある
- 研修の全プログラムに参加できる
- 研修の前提となる必要なドイツ語力を備えている

詳細は，2023 年夏以降，ホームページの申込要領をご確認の上，
2023 年 10 月 10 日までにメールの添付でお送りください。

問い合わせ／申込：ゲーテ・インスティトゥート東京
ドイツ語教員研修支援プログラム係
TEL:03-3584-3201　**E-Mail: stipendien-tokyo@goethe.de**

DLL: Das Fort- und Weiterbildungsprogramm für Deutschlehrkräfte am Goethe-Institut Tokyo

Mit der Fort- und Weiterbildungsreihe **DLL – Deutsch Lehren Lernen** des Goethe-Instituts lernen Sie im gemeinsamen Austausch mit anderen Deutschlehrenden, wie guter Unterricht gelingen kann – anschaulich und praxisorientiert! Mit aktuellen fachdidaktischen Inhalten erweitern Sie Ihre eigenen Unterrichtskompetenzen und können sich als professionelle DaF-Lehrkraft qualifizieren. Ideen und Ansätze aus der Fortbildung können Sie dabei direkt in der Praxis umsetzen.

Das unterrichtsnahe Programm richtet sich an alle Interessierten, die sich als Lehrende des Faches Deutsch als Fremdsprache fort- oder weiterbilden möchten. Eine Teilnahme ist für DaF-Lehrende mit formaler Ausbildung oder ohne formale Ausbildung möglich. Auch ohne ein Germanistik- oder DaF-Studium absolviert zu haben, können Sie ihre Kompetenzen mit Einheiten aus der Reihe DLL ausbauen. Voraussetzung für eine erfolgreiche Teilnahme sind Sprachkenntnisse auf dem Niveau B2 nach dem Gemeinsamen Europäischen Referenzrahmen.

Das Goethe-Institut Tokyo bietet die DLL-Einheiten 1-6 in Form eines regionalen DLL-Zyklus regelmäßig an. Besuchen Sie unsere Website und erfahren Sie mehr über das Fort- und Weiterbildungsprogramm DLL – Deutsch Lehren Lernen.

Deutsch Lehren , Lernen - Goethe-Institut Japan

一般社団法人日本独文学会岩﨑奨学金（出版助成）のお知らせ

2020 年度に岩﨑奨学金は，若手研究者のための出版助成に改定されました。2022 年度は，申請がありませんでした。

なお，岩﨑奨学金（出版助成）の概要は，下記のとおりです。

【奨学金の趣旨】

日本独文学会は，故岩﨑英二郎先生のご遺族からいただいた寄付金で「日本独文学会岩﨑奨学金」を創設し，若手研究者の育成のために国際学会の発表に対しての奨学金を支給してきましたが，必要とされている援助を行うという観点から，この度より若手研究者の研究成果公開のための奨学金制度へと改定することになりました。

【奨学金の概要】

1. 博士論文の出版に際して，テニュア職を持たない会員に対して，30 万円を上限に出版費用の助成を行う。
2. 奨学金の支給は年度総額の上限を設定する（2020 年度については 60 万円）。また，同一会員への支給は 1 回のみとする。
3. 募集は年度毎に行い，日本独文学会ホームページその他の手段で会員に広く公示する。
4. 奨学金は 2020 年 4 月より募集を開始する。
5. 奨学金の返済の義務はない。ただし，支給後に，申請対象の研究書の出版を中止した場合，受け取った奨学金を返還するものとする。
6. 他の出版助成を受けることは可能であるが，本奨学金と合わせて出版費用を超えないこと。
7. 奨学金を受けようとする者は，決められた書式の申請書類を日本独文学会事務局に提出する。
8. 審査は日本独文学会常任理事会内に設けた審査委員会が行う。審査委員会は，外部の専門家に審査を依頼することができる。審査の結果適当と認めた場合，奨学金を支給する。
9. 奨学金の原資を使い切った時点でこの事業を終了する。また，事情により，予告なしにこの事業を終了することもある。

【募集人数】
各年度 2 件〜3 件程度。

【応募資格】　以下の条件をすべて満たす者。
1. 日本独文学会員。
2. テニュア職を持たない者。

【応募方法】
1. 下記の必要書類を日本独文学会事務局へ郵送する。a）と b）に関しては同時にファイルを電子メールで hojo@jgg.jp 宛に送付する。
2. 応募締め切り：毎年 6 月 30 日
   a) 奨学金申請書（3 種類），書式（3）
   b) 原稿
   c) 誓約書
   d) 博士論文の審査に合格したことを証明する文書

【選考方法】
1. 提出された申請書を日本独文学会常任理事会で審査する。
2. 必要に応じて，審査委員会外の専門家に審査を依頼することがある。
3. 申請から 3 ヶ月程度で申請者に採否を通知する。

第 20 回日本独文学会・DAAD 賞選考結果

2023 年 4 月 1 日現在，審査中。結果は，5 月中に日本独文学会ウェブサイトにて公表する予定。表彰式は春季研究発表会会場にて行う。

日本独文学会 2022 年秋季研究発表会報告

2023 年 1 月 28 日

2022 年秋季研究発表会は 10 月 8 日（土）および 9 日（日）に北海道支部の担当により Zoom によるオンライン方式で開催された。

1 日目は 11：50〜17：30，2 日目は 10：00〜13：00 に開催された。研究発表に先立ち，日本独文学会・DAAD 賞授賞式，ドイツ語教育部会総会が開催された。研究発表会の内訳はシンポジウム 2 本，口頭発表 7 本，ポスター発表 1 本，ブース発表 1 本であった。また，学会プログラムと並行して，朝日出版社・郁文堂・三修社・同学社・白水社・ひつじ書房各書店による書籍展示がオンラインツール oVice を会場として実施された。さらに 1 日目の 18：00〜20：00 に，オンラインツール oVice を用いてオンライン懇親会が開催された。

収支報告（非学会員からの参加費収入およびオンラインツール利用料の支出）は以下の通り：

収入：	非会員参加費	¥1,000×5 件
	計	¥5,000
支出：	Zoom 使用料	¥19,070
	oVice 使用料	¥27,500
	計	¥46,570
収支合計		¥-41,570

（企画担当理事：荒又雄介・生駒美喜）

第 48 回語学ゼミナール報告

この 2 年間，語学ゼミナールはオンラインでの開催を余儀なくされていたが，2022 年は念願の対面での語学ゼミナールを開催することができた。オンライン企画は実施回数にカウントしていないため，今回が第 48 回の語学ゼミナールとなった。今回は総合テーマとして Probleme der deutschen Syntax: Wortstellung, Kasus, Paradoxien を掲げ，昨年のオンライン企画でも講師を務めたコンスタンツ大学の Josef Bayer 教授をお招きし，多摩永山情報教育センターにて，従来と同じく 2022 年 8 月 29 日（月）～ 9 月 1 日（木）の 4 日間の日程で実施した。アジアゲストとしては韓国から Jeong Su-Jeong 教授（Chungbuk National University）に参加いただくことができた。ゼミナールの参加者と期間中のプログラムは以下の通りである。

招待講師：　Prof. Dr. Josef Bayer (Universität Konstanz)

アジアゲスト：Jeong Su-Jeong（Chungbuk National University）

一般参加者（姓のアルファベット順）：
*大喜祐太（近畿大学），出島恒太郎（学習院大学・院生），藤井俊吾（東京大学・院生），藤縄康弘（東京外国語大学），保阪靖人（日本大学），井口真一（関西学院大学），池田裕行（東京外国語大学・院生），*稲葉治朗（東京大学），井坂ゆかり（東京外国語大学），
*板倉歌（日本大学），カンミンギョン（東北大学），河野巧一（東京大学・院生），松本蒼来（慶應義塾大学・院生），**宮下博幸（関西学院大学），森芳樹（東京大学），中西志門（京都大学・院生），難波華子（京都大学・院生），成田節（東京外国語大学），仁科陽江（広島大学），*信國萌（大阪公立大学），*小川敦（大阪大学），作本大祐（京都大学・院生），*Manuela Sato-Prinz（DAAD Tokyo），高橋眞樹（慶應義塾大学・院生），*高橋美穂（三重大学），高畑明里（東京大学・院生），田中愼（慶應義塾大学），*時田伊津子（日本大学），筒井友弥（京都外国語大学），横田詩織（無所属）

**実行委員長，*実行委員

プログラム：

8 月 29 日	19:30-22:00	開会，Bayer 教授講演 I
8 月 30 日	9:30-12:00	Bayer 教授講演 II
	14:00-15:45	一般研究発表 I
	16:00-18:00	ネットワークミーティング

8 月 31 日　　9:30-12:00　Bayer 教授講演 III
　　14:00-16:15　一般研究発表 II
　　19:00-21:00　懇親会
9 月 1 日　　9:30-12:00　ワークショップ
　　13:30-15:00　3 つの講演に関するディスカッション

参加者 32 名中，11 名が大学院生もしくは大学院進学希望者であった。またゼミナール開催にあたってはDAAD に多大なご支援を賜った。ここに記して謝意を表したい。

次に語学ゼミナールでの招待講師の講演内容について簡単に報告する。Bayer 教授の第 1 講演は Formale Prinzipien und interpretatorische Lücken と題され，初日の夜に行われた。講演ではまず，文やそれが表す思考内容は部分からなり，その部分を連鎖させることによって文を無限に生み出すことができるという W. v. Humboldt, Frege, Chomsky の立場が紹介される。本講演ではこの立場では「例外」として除外されるものの，その数からして無視できないケースをどのように説明するかが扱われた。この「例外」として取り上げられたのは，トルコ語の特定性標識，ベンガル語の特定性標識，ルーマニア語の属格，ドイツ語の格と定冠詞，分裂したトピック化，定動詞第 2 位の際の助動詞 tun，現在分詞の名詞的用法の 7 つである。ここで一例としてドイツ語の格と定冠詞を取り上げると，抽象名詞である Kälte は通常非限定的に用いられる場合，Kälte stört mich nicht/Ich kann Kälte gut ertragen のように定冠詞を伴わないが，Du darfst diese Pflanzen nicht der Kälte aussetzen の場合，Kälte に定冠詞をつけないと非文となり，またその場合の定冠詞は定冠詞の本来の機能である定性を示す機能を持たない解釈を許し，とりわけ形態的に格を表示するために用いられる（いわゆる示格定冠詞）。ここでは統語的な欠陥を避けるために，本来定・不定の対立を表すはずの定冠詞が用いられ，またここではその対立が解消されている。Bayer 教授が取り上げた 7 つの例はどれもこのようにそれぞれの表現に本来の意味機能が見られない例である（interpretatorische Lücken）。Bayer 教授はこれらの例が一般的な原則に従っていると主張する。これらのケースに見られる共通項は，それらが他の選択肢がない語彙項目で，そのため他の語彙項目と意味的な弁別を作り出せないものであるが，このデフォルトとなっている語彙項目を選択することで，形式的な制限を満たすという原則である。つまりこのような語彙項目は通常の語彙項目ではあるものの，形式的な制限の違反を修復するために用いられるものであり，取り上げたさまざまな「例外」は，この原則に従うものとしてまとめられるとされる。

二日目午前の第 2 講演は，Was ist Verb-Zweit? と題して行われた。まず定動詞第 2 位 (Verb-Zweit，以下 V2) について説明が行われ，動詞はただその定素性 (Finitheitsmerkmale) のゆえに二番目に現れ，動詞の語彙的部分は文末の基底位置で評価が行われるという一般化が提示される。本講演ではこの一般化を検証するために，迂言的な tun，ドイツ語の方言やイディッシュ語に見られる動詞の二重化，否定極性項目としての brauchen，nur を伴うフォーカス結合，不変化詞動詞の 5 つの現象が取り上げられた。ここではこのうち迂言的な tun に基づく説明を紹介する。ドイツ語の特定のレジスター（例えば幼児語）では，Der Klaus tut gerade den Müll hinuntertragen のように，迂言的な tun が用いられる。ここでは tun が第二位の位置で定素性のみを示す働きをしている。この tun は英語の do に比べなお語彙的な意味が保持されており，Die Clarissa tut den ganzen Tag auf dem Sofa liegen/*Konstanz tut am Bodensee liegen の対立が示すように，tun はステージレベル述語とは共起可能だが，個体レベル述語とは共起できないという制約がある。この対立は tun が文末の基底位置で意味的に解釈されることによって生じるものとされる。なお Am Bodensee liegen tut Stuttgart zum Glück nicht のように不定詞句をトピック化すると，個体レベル述語とも共起可能となるが，これは tun が V2 を保証するためのデフォルト形式として現れるためだとされる。以上により動詞の意味解釈は基底位置で行われ，V2 制約を満たすためには動詞の定素性のみが関与していることが示される。Bayer 教授はさらに他の 4 つの現象を取り上げ，同様に上に挙げた一般化の正当性を説得的に示された。また最後に Wechsler (1990, 1991) などを紹介しつつ，なぜ定要素が V2 位置に現れるのかという点についても言及がなされた。これらの立場では V2 の位置である C 位置が発話内行為 (illocutionary force) の標識の位置であるため，それを担う定素性がこの位置に移動すると説明される。しかし Bayer 教授は感嘆文を挙げ，そこではこのような移動が見られないケースも同様の機能を示していることを指摘し，このような立場に関してはまだ多くの問題があるとして，講演を締めくくった。

三日目午前の第 3 講演の題目は Reanalyse und Grammatikalisierung で，バイエルン方言に見られる接続詞の屈折と，同じくバイエルン方言における心態詞 denn の二つが扱われた。まずバイエルン方言においては，ob-**st** du des ned spuin kon-st „ob du das nicht spielen kannst“ のように，接続詞に人称の屈折が見られることが紹介された。この接続詞の屈折語尾は歴史的には主語人称代名詞の接語化 (Klitisierung) により生じたもので，さらに浸食 (Erosion) のプロセスにより，音韻・統語・意味面での変化が起こったものとされる。これは統語的には C の位置に昇格した接語が一致の標識と見なされるという再分析が生じた結果として分析される (Fuß 2005)。接続詞の屈折の問題点としては，屈折は本来語幹の要素が決

まっているが，接続詞の屈折の場合，同種の屈折が wer-**st**, wo-**st**, wann-**st** のような疑問詞や，seit-**st**, bevor-**st** のように前置詞にも見られる点がある。接続詞の屈折はこの点で代名詞の接語化に近く，屈折よりむしろ接語のステータスを示すように見えることが指摘された。また接続詞の屈折については動詞の一致とは独立したものであるという立場がある。この立場は接続詞の一致が時に結合の第一要素のみと一致している (first conjunct agreement; van Koppen 2005) ように見える現象に基づくものであるが，Bayer 教授はこれに関して最初に単数主語で始めた後に，途中で複数主語に切り替えたための破格構文 (Anakoluth) として分析する提案を行った。これは接続詞の屈折が人称代名詞の接語化から生じたという経緯から見ても，妥当な分析であると思われる。さらにこの接続詞の屈折に類するものは，付加疑問の標識である gell にも見られ，その場合主語ではなく，発話相手との一致が見られるという興味深い観察が紹介された。次にバイエルン方言の denn に関しては，まずバイエルン方言では Wo wohnst**'n** du? のように denn が音韻的に縮約した形で現れ，Wh 疑問文では必須要素であって意味的解釈を受けず，また統語的には常に C 位置に現れて通常の denn のように中域上部に現れることはないことが指摘され，これは文法化の中心的な特徴であるとされる。またこれらの特徴を持つ点で標準語もしくは他方言の縮約形とは異なるものであるとされ，バイエルン方言の 'n は Wh 疑問文における Wh 一致の標識であるという主張がなされる。またその際のプロセスとして，denn が C 位置に接語化され，さらに C 内の Wh 一致標識として再分析されるというプロセスが提案された。つまり SpecCP の Wh と 'n の間には一致関係があるとされる。これが正しいとすると，SpecCP の要素である Wh は原則として消えても構わないことが予期されるが，実際にバイエルン方言では例えば Wos is-**n** do los? „Was ist hier los?“ が__ ist-**n** do los? のように wos を落とすことが可能で，また以上からは 'n がないと wos が落とせないことが予期されるが，実際にインフォーマント調査でもこれが確認できることが示された。最後に接続詞の屈折，'n のどちらにおいても C 位置で再分析が生じたという点でつながりがあることが示された。

以上の 3 つの講演を通じて，Bayer 教授には生成文法における基本的な考え方と最新の理論を豊富な具体例をもとに示していただき，生成文法になじみの薄い参加にとっても充実した学習の機会となった。また講演後の質疑応答も連日たいへん活発に行われた。

ゼミナール 2〜3 日目には，アジアゲストの Jeong 教授の講演ならびに一般参加者による計 4 本の発表が行われた。例年に比べて発表の数は少なかったが，ここでも聴衆から積極的に質問や意見が出されただけでなく，Bayer 教授からも有益なコメントやアドバイスが発表者，特に若手発表者に対してなされ，非常に有意

義な学術的協働の場となった。

マスクやパーテーションが必要だったことを除けば，ゼミナールは以上のようにほぼ通常通り運営できたが，これまで慣例となっていた各日のプログラム終了後の懇親会は感染対策上，断念せざるを得なかった。これを補うことを目的として，今回二日目の発表終了の後にネットワークミーティングを設け，参加者が互いに自己紹介しつつ，大学教員の参加者と学生参加者間，また学生参加者間のネットワークが築けるようにした。遠方に位置する他大学の院生との交流の機会はなかなかないが，これにより若手参加者同士の交流をいっそう促進することができたと考えられる。最終日の懇親会も感染症対策上，着席による形ではあったものの，無事開催することができ，いつもながらの交流が実現した。

以上のように，第 48 回語学ゼミナールは久しぶりの対面開催ではあったが，トラブルらしいトラブルに見舞われることなく，以前の語学ゼミとほぼ同様の形で成功裡に終了することができた。招待講師の Bayer 教授をはじめ，DAAD，参加者各位，実行委員各位，担当理事，さらには日頃より語学ゼミナールの活動を支援してくださっているすべての学会員の皆様に，この場を借りて改めて御礼申し上げる。来年も語学ゼミが引き続き対面で実施でき，多くの皆様に参加いただけることを願っている。

（文責：宮下博幸）

日本独文学会研究叢書既刊一覧

150 号 :「複合判断・単独判断とドイツ語文法 －定性を軸に－」
編集者： 藤縄 康弘
執筆者 : 大喜 祐太，吉田 光演，筒井 友弥，藤縄 康弘，田中 愼
（2022 年 10 月 8 日発行）

151 号 :「グリム・メディア・対話　－変容し活用されるドイツの民間伝承－」
編集者 : 野口 芳子
執筆者 : 蚊野 千尋，野口 芳子，横道 誠
（2022 年 10 月 8 日発行）

2022 年度ドイツ語教員養成・研修講座報告

1. 本講座の運営について

ドイツ語教育部会，東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2021 年 10 月から Zoom による全面オンライン開催に移行し，全国からの参加が可能となっている。受講者は，ワークショップへの参加に加え，各モジュールのテーマについてレポートを作成し提出することが求められる。また，今期より参加者の省察や議論を増やしたカリキュラムを導入し，専用のプラットフォームである Moodle 上では，受講者同士，また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され，受講者・講師双方にとって，ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

2. 2021 年秋開講のコースについて

2021 年秋開講のコースは，前期が 2021 年 10 月から 2022 年 7 月までの 8 回のワークショップで 4 モジュール，後期が 2022 年 10 月から 2023 年 9 月までの 8 回のワークショップならびに *Deutsch Lehren Lernen* の課題の 7 モジュールで，計 11 のモジュールからなる。現在は後期コースが開催されており，20 名の受講者が参加し，2023 年 2 月の時点で第 4 回ワークショップまで終了した。また 10 月のモジュール 8「ランデスクンデと異文化理解」では，初めての試みとして過去に提供されていなかったモジュールに講座修了生の参加を認め，6 名の参加者にモジュール修了証を発行した。

後期コースのワークショップ開催日，モジュールのテーマならびに講師は以下のとおりである。

後期コース（2022 年 10 月—2023 年 9 月）

ワークショップ	日付	ワークショップとモジュールのテーマ	
		前半	後半
1	10 月 22 日	外部講師による講演	**M8**: ランデスクンデと異文化理解 野村幸宏，草本晶
2	11 月 12 日	DLL 4 導入ワークショップ	
3	12 月 17 日	M8 のレポートの評価と討論	**M9**: 様々なメディアと ICT の導入 岩居弘樹，境一三
4	1 月 21 日	M9 のレポートの評価と討論	DLL 4, PEP の準備
5	4 月 22 日	DLL 4, PEP の準備	**M10**: テストと評価 坂本真一，吉村創
6	6 月 24 日	Praxiserkundungsprojekt (PEP) プレゼンテーション	
7	7 月 22 日	M10 のレポートの評価と討論	**M11**: 学習者の動機づけとインターアクション 藤原三枝子，森田昌美
8	9 月 23 日	M11 のレポートの評価と討論	講座の総括

2022 年度ドイツ語論文執筆ワークショップ開催報告

第 7 回ドイツ語論文執筆ワークショップを, 2022 年 12 月 3 日（土）と 4 日（日）の 2 日間の日程で開催した。今回のワークショップは立教大学にて 2 年振りの対面開催であった。ただし，新型コロナウイルス感染対策の観点から，通常対面時に行われていた懇親会の開催は見送った。講師は井出万秀氏（立教大学），マヌエル・クラウス氏（早稲田大学），大田浩司氏（帝京大学）が，実行委員は平野遥海氏（東京大学），山中慎太郎氏（東京大学），若山真理子氏（東京大学），池中愛海（慶應義塾大学）が務めた。今年度のワークショップには大学院生や若手・中堅の研究者を中心に，両日合わせて 9 名（いずれも独文学会会員）が参加した。ワークショップは以下のスケジュールで行った（敬称略）。

12 月 3 日（土）

13:00-13:30	開会の挨拶（井出）・参加者自己紹介
13:30-14:45	ドイツ語論文執筆に関する概論（井出）
14:45-15:00	休憩
15:00-16:15	ドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント（井出，クラウス）
16:15-16:30	休憩
16:30-18:00	アカデミック・ライティング演習（クラウス）

12 月 4 日（日）

10:00-11:00	講演（大田）
11:00-11:30	質疑応答
11:30-13:00	昼食休憩
13:00-14:50	アカデミック・ライティング演習及びドイツ語レジュメ・アブストラクトへのコメント（井出，クラウス）
14:50-15:05	休憩
15:05-15:50	総括としてのディスカッション・質疑応答
15:50-16:00	閉会の挨拶

3 日は，ワークショップ開催にあたり井出氏から開会の言葉をいただいたのち，実行委員も含め参加者全員がごく簡単な自己紹介を行った。本ワークショップは例年，ドイツ語での論文執筆という同じ目的をもった若手研究者同士が交流でき

る場を提供することも目的のひとつとしている。そのため，今回は懇親会の代わりとしてワークショップ冒頭に自己紹介をしてもらうことで，各プログラムの合間の休憩時間などに互いに話しやすい雰囲気を作ることを目指した。メインのプログラムとしては，まず井出氏が論文という文章ジャンルにふさわしい論理展開とそれに対応した言語表現について概説した。口頭発表と論文での発表では使用する表現が異なることから，たとえ同様の研究内容について述べている場合でも口頭発表の原稿をまったくそのまま論文にすることはできないなど，常に目的に応じた言語表現の選択が必要となることが改めて確認された。次に，参加者執筆のレジュメ・アブストラクトに即した具体的な解説が井出氏とクラウス氏によって行われた。このレジュメ・アブストラクトは希望者に事前に提出してもらい，講師によって校正されたものと校正前のものとを比較のために全参加者に共有した。その後，クラウス氏がアカデミック・ライティング演習として，実際に様々な形の課題を出しながら，ドイツ語論文執筆に役立つ表現や注意点について解説した。

4 日は，大田氏による講演「ドイツ語による博士論文執筆への招待――ギーセン大学での経験から」で始まった。講演内容は，ドイツ語で論文を執筆することの意義，ドイツ留学とドイツ語での博論執筆のための準備から，文章を書く際の具体的な注意点など，多岐にわたり，質疑応答でも様々な角度から質問がなされた。午後のプログラムでは前日に引き続き，クラウス氏によるアカデミック・ライティング演習が行われた。その際，クラウス氏は参加者が自身の意見を気軽に表明するためのツールとしてスマートフォンアプリ Poll Everywhere を用いた。また前日同様, 参加者のレジュメ･アブストラクトの校正に関する解説も行われた。プログラムの最後に，2 日間のワークショップ内で提起された疑問点や，ワークショップへの参加によって得られた成果について改めて全体ディスカッションを行い，ワークショップの締めくくりとした。

今年度のドイツ語論文執筆ワークショップでも，前年度に引き続き，講師と参加者が双方向に意見を交わす「ゼミナール」形式をとることを重視し，いずれのプログラムにおいてもこまめに質疑応答の時間を設けた。また前述の通り，ワークショップ冒頭で全員が自己紹介を行うことで休憩時間等における参加者の交流を促し，質疑応答の時間にも発言しやすい雰囲気づくりに努めた。加えて参加型の演習が多かったことも，参加者が質問や意見を述べやすい場を提供することに役立ったと考えられる。これらの工夫と参加者の意欲的な姿勢により，ワークショップでは最後まで活発な議論がなされた。

なお，本ワークショップは前年度がオンライン開催であったのに対して，今回は対面での開催となった。前年度と比較してみると，オンラインに比べ対面のほ

うが講師と参加者，あるいは参加者同士のコミュニケーションが円滑にとれるように思われた。その一方で，宿泊を伴う長距離の移動が必要となるためか，遠方からの参加者は一名にとどまった。

以上の通り，今年度も無事にワークショップを開催し盛会のうちに終えることができたことに，実行委員を代表して謝辞を述べたい。ワークショップ計画の段階から実行委員に的確な助言をくださった井出万秀氏は，当日も参加者の質問や意見に丁寧に回答してくださった。マヌエル・クラウス氏は参加者のレジュメ・アブストラクトの校正及び解説，そしてアカデミック・ライティング演習を通して，ドイツ語論文執筆に際した具体的な表現について参加者が自ら考え，学ぶ場を提供してくださった。大田浩司氏は，ドイツで実際に博士論文を執筆された経験をもとに，留学の準備から博士論文提出後の口頭試問への対策方法に至るまで具体的な道筋を示しながら，執筆のペース設定や進め方，ドイツ語で博士論文を執筆するにあたっての心構えなどについても貴重な助言をくださった。以上の講師の先生方，ワークショップに積極的に参加してくださった参加者の皆様，そして渉外担当理事として準備段階から様々な支援を賜った小林和貴子氏と山本浩司氏，ならびに，実行委員を引き受け，ワークショップ成功に尽力してくださった若山真理子氏，平野遥海氏，山中慎太郎氏に，この場を借りて厚く御礼を申し上げる。

（文責：池中愛海）

支部報告

北海道支部

〇2022 年 12 月 10 日（土）に第 90 回研究発表会が対面開催され，以下の研究発表が行われた。

寺尾恵仁（北星学園大学）：代表関係から見るシアトロクラシーの可能性　―ブレヒト『アルトゥロ・ウイの興隆』を中心に
野田由美意（北見工業大学）：ナチス時代，デュッセルドルフ市立美術館の「若きラインラント」コレクションについて
高橋修（北海道教育大学）：ヘルマン・ヘッセとルートヴィヒ・フィンク―青春期の友情がヘッセにとって持った意味
参加人数：22 名
会員数：59 名

東北支部

〇第 64 回研究発表会を 2022 年 11 月 12 日（土）に東北大学文学研究科にてハイブリッド形式で開催した。内容は下記の通り。

・嶋崎啓「条件文に用いられる未来形」
・竹内拓史「ヴィルヘルム・フルトヴェングラーの「非ナチ化のための質問票」における虚偽記載とそのトーマス・マンからの影響の可能性について」
・佐藤研一「レッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』――宮廷からの逃走――」

北陸支部

〇2022 年度研究発表会・総会が以下のとおり実施された。
日時：2022 年 11 月 19 日（土） 午後 1 時～午後 5 時 30 分
会場：福井県教育センター 4 階 会議室 403～404
1) 開会の挨拶　　日本独文学会北陸支部長　志村 恵
2) 研究発表会（午後 1 時 5 分～午後 4 時 20 分）

1. 「誰もいない場所（ニーマンツラント）」 ― Th. W. アドルノにおける「子どもというモデル」に

ついて
田邊 恵子

2. 友好的で中立的な隣人のなかの他者性 ― ナチス時代のドイツ少女小説におけるデンマーク表象
佐藤 文彦
3. ローベルト・ヴァルザーにおけるリアリズムの問題について
葛西 敬之
4. Online-Fortbildungskurs „Deutsch Lehren Lernen (DLL) Standard“ und die Umsetzung der erworbenen Kenntnisse im Deutschunterricht für Anfänger*innen
Jana Klacanska
5. Karl Valentin の『Jugendstreiche』について
宮内 伸子
6. als ob 文は「非現実話法」として説明するのが良いか？
成田 節

3) 総会（午後 4 時 30 分～）

関東支部

○2022 年 12 月 11 日（日）に第 13 回関東支部研究発表会を Zoom によるリアルタイム配信の形で開催した。5 件の研究発表および 1 件の国際学会参加報告がなされ，活発な議論が交わされた。発表者と表題は次の通り。

林 明子（中央大学）: 専門分野における「読みのストラテジー」習得に向けて ― テクスト言語学を援用した試み

山中 慎太郎（東京大学）: テクストの＜接ぎ木＞モデルについて ―『親和力』を植物的に読む

幅野 民生（上智大学）: フリードリヒ・シュレーゲル『ギリシア文学の研究について』における初期ロマン派的批評の萌芽

小池 駿（中央大学）: 更新されるべき過去 ― フリードリヒ・トーアベルク『ゴーレムの再来』における伝説性，神話性，歴史性の観点からの一考察

中村 祐子（東京大学）: クリスタ・ヴォルフと「病」―『クリスタ・T の追想』における混沌と探求の語り

宮崎 裕子（立教大学）: IDT Wien 2022 参加報告

東海支部

○支部会員数 109　名（2023 年 1 月 28 日現在）

○機関誌

2022 年 10 月，『ドイツ文学研究』第 54 号が刊行された。

論文

１．西川智之：世紀末転換期のディレッタンティズム　―トーマス・マンとアルフレート・リヒトヴァルクの比較―

２．中野英莉子：付加疑問文を形成する不変化詞 gell が果たすコミュニケーション上の機能　　―oder, ne, ja との比較から―

３．大塚直：後期ホルヴァートと「人間の喜劇」　―戯曲『男のいない村』と『ポンペイ』における法と人間性について―

研究エッセイ

１．小栗友一：狼の喉飴は白墨？　―グリム童話「狼と七匹の子ヤギ」をめぐって―

２．田村健一：二人称代名詞親称・敬称の使用に関するドイツ語とフランス語の相違　―三島由紀夫『宴のあと』の翻訳に基づく―

３．鈴木康志：アンネの『日記』における自由間接話法　―オランダ語 zouden ＋不定詞の独訳と邦訳の比較から―

書評

１．鈴木康志著『ドイツ語命令・要求表現』（納谷昌宏）

２．北村陽子著『戦争障害者の社会史－20 世紀ドイツの経験と福祉国家』（稲葉瑛志）

○合評会

2023 年 4 月 15 日（土），10 時より東海支部機関誌に掲載された論文の合評会を Zoom によるオンラインで行うことが決定された。

○2022 年度総会

１）理事報告，庶務報告，編集委員会報告，会計報告，及び予算案の報告と承認。

２）『ドイツ文学研究』からの転載については，以下の通りに承認された。

投稿規定の項目 7 として，次の文を追記する。

「著作権は著者と日本独文学会東海支部の共有とする。刊行から 1 年を経た後，

日本独文学会東海支部幹事会の承認を得て転載可能とする。なお転載する際は，初出情報を必ず明記する。」

総会で出された，「機関誌の論文等を PDF でブログに掲げてアクセスしやすいようにしてほしい」という意見については，会費支払いをしない人まで閲覧できることへの懸念もあり，継続審議事項とした。

３）役員選挙

役員選挙の結果，以下の通り選出された。なお，改選が必要な幹事一名に関して，総会の席上で一年の継続が認められ，今年末に継続の可否を投票することとなった。

支部長（二年任期）：糸井川修

幹事（二年任期）：高橋美穂，山本恵，中川拓哉

2023 年度新幹事会の役割分担は次の通り（下線付きは今回選出，下線無しは留任）

支　部　長：糸井川修

支部選出理事：島田了

庶　　務：稲葉瑛志　北村陽子

会　　計：中川拓哉　高橋美穂

編　　集：中野英莉子　山本恵

〇2022 年度日本独文学会東海支部冬季研究発表会

日時：12 月 10 日(土曜日)　13 時 00 分より

場所：名城大学天白キャンパス共通教育棟東 6 階 E601 講義室

研究発表

松井隆幸：ヘーゲル『精神現象学』におけるロマン主義批判　―「美しい魂」について―

講演会

諏訪哲史氏「種村季弘―18 歳の少年が足を踏み入れた生きるヴンダーカマー―

〇2023 年度夏季研究発表会の開催について

7 月 8 日(土曜日)，会場は愛知学院大学名城公園キャンパスを予定。

京都支部

〇2022 年度秋季研究発表会・総会

日時：2022 年 11 月 12 日（土）13：30〜17：20

会場：京都大学　文学部校舎　第 7 講義室

参加者数：43 名

研究発表：

１．ヴィーラント初期メルヒェン作品における想像力論の展開
—『ビリビンカー王子の物語』から『イドリスとツェニーデ』へ
ポルドゥニャク エドワルド（京都大学大学院生）

２．怪物を読み解くこと—W・ベンヤミンのカフカ論に寄せて—
小林 哲也（京都大学）

総会：2021 年度決算報告と 2022 年度予算案，各委員報告

支部役員選挙：9 名の新役員が選出された。

〇2023 年度春季研究発表会は 7 月 1 日（土）に京都外国語大学で開催予定。

〇学会誌『Germanistik Kyoto』について

2000 年より年 1 回刊行。2022 年発行の第 23 号掲載論文は以下の通り。

■〈吐き気〉を催させるヴァンパイア
—ゲーテと E.T.A.ホフマンから抽出されるヴァンパイア像—
森口 大地

■語り得ぬものとしての故郷
トーマス・ベルンハルト『行く』における引用による語りについて
飯島 雄太郎

■初級ドイツ語学習者がディスコースマーカーを必要とする会話場面—ドイツ語会話におけるドイツ語・日本語ディスコースマーカーの使用場面と使用方法分析—
武井 佑介

〇2023 年度支部役員

支部長：青地伯水（京都府立大学）

支部選出理事：河崎靖（京都大学）

編集委員：小林哲也（京都大学），吉田孝夫（奈良女子大学）

渉外・広報委員：菅利恵（京都大学），大喜祐太（近畿大学）

会計委員：熊谷哲哉（近畿大学）

庶務委員：谷口栄一（大阪公立大学），田原憲和（立命館大学）

〇会員数：137 名（2023 年 4 月 1 日現在）

阪神支部

〇講演会

日時：2022 年 9 月 2 日（金）17：00～18：30

場所：関西学院大学　大阪梅田キャンパス

講演者：Prof. Dr. Josef Bayer (Universität Konstanz)

講演題目：Modalpartikeln in deutschen W-Fragen

参加者： 9 名

〇朗読会（主催：ゲーテ・インスティトゥート，阪神ドイツ文学会　後援：日本独文学会京都支部）

日時：2022 年 10 月 30 日（日）　17：00～18：30

場所：ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

朗読会：かけはし文学賞 2022 年　アルトゥール・ベッカー&阿部津々子『Drang nach Osten（東方への衝動）』

ゲスト：Artur Becker 氏

通訳：阿部津々子氏

参加者： 30 名

〇第 239 回研究発表会

日時： 2022 年 12 月 4 日（日）13:30～

場所：大阪教育大学天王寺大阪教育大学天王寺キャンパス西館 講義室Ａ

参加者： 25 名

シンポジウム

「別世界を開くものとしての芸術作品」

司会：我田広之（大阪大学）

1. 中橋誠（電気通信大学）：ギリシア神殿からみる『芸術作品の根源』

2. 野上俊彦（神戸大学研究員）：C・F・マイヤーの詩「ローマの噴水」とハイデガーの「真理」像

3. 丸山栄治（神戸大学研究員）：作品が存在することの異様さ―ヴィトゲンシュタインのアスペクト論を手がかりに

4. 斧谷彌守一（甲南大学名誉教授）：作品の「大地」とは何か

〇2023 年 1 月 27 日現在の会員数は 207 名

中国四国支部

〇2022 年 10 月 25 日，機関誌『ドイツ文学論集』55 を発行。

掲載論文

1. Hiroshi MATSUO
   Die Ikarus-Gedichte von George und Baudelaire
2. 橋本　紘樹
   ハーバーマスとゲーレンの対峙，初期ドイツ連邦共和国における民主主義的発展と「制度」の問題　―憲法パトリオティズムの前史として―

〇2022 年 10 月 29 日，岡山大学にて対面で中国四国支部第 71 回総会ならびに研究発表会を開催。

幹事会（11:00～12:00）

総　会（13:00～14:00）

1. 支部幹事・役員交替について原案のとおり承認した。
   役員・幹事（2022 年 10 月 29 日より）

支部長 松尾博史（松山大学）

支部選出理事 黒田晴之（松山大学）（全国学会との関係で黒田の任期は 2023 年 6 月 1 日からとし，それまでの期間は井戸が引き続き担当）

地区幹事 【岡山・鳥取】由比俊行（岡山大学）　【広島・島根】今道晴彦（広島大学）　【四国】井戸慶治（徳島大学）

会計 伊藤亮平（松山大学）

編集委員会 委員長 最上英明（香川大学）　副委員長 井戸慶治（徳島大学）

庶務 斎藤昌人（高知大学）

2. 会計年度の変更ならびにそれに伴う特例が提案され，承認された。
3. 別紙のとおり 2021 年度会計報告ならびに 2022 年度予算案が報告され，承認された。
4. 次年度以降の支部総会・研究発表会については，2023 年は徳島地区，24 年は広島・島根地区で開催の予定。2025 年度の開催地区については，従来の予定は香川地区であるが，その時に専任教員がいないことから「四国地区」という新しい

グループで担当するという案が出され，一応そのような予定とした。ただし，最終決定は来年度 2023 年度に開催される徳島での情況を見てから行う。
5. 今後の支部会運営体制について 以下の 2 点について審議された。
①今後の運営体制
上記 4 で審議したとおり地区の単位を再構成する点が確認された。さらに他支部の情報も集め, 場合によっては他支部との一部連携も模索する点が確認された。
②機関誌『ドイツ文学論集』の電子ジャーナル化について，新編集委員長を中心に検討していくことが 確認された。

研究発表会（14:30～17:00）

１．　小林 英起子
　啓蒙喜劇における変装と策略の作劇法 ― ゴットシェート夫人とレッシングの喜劇を例に

２．　金関 猛
　『婚約書簡』に見るユダヤ人フロイト

３．　川野 正嗣
　加速する世界の中の個人――E･ユンガーとベンヤミンの紀行文における詩人像

４．　Anette Schilling
　Mehrdeutigkeiten im Text als Einstieg zum literarischen Verstehen. Vorschläge zur Textarbeit mit Wolfgang Borcherts Kurzgeschichte „Das Brot“

〇2022 年度の会員数は 72 名＋賛助会員 5 社。前年度より 8 名減。

西日本支部

〇2022 年 10 月 30 日「九州ドイツ語暗唱コンテスト 2022」（福岡大学，オンライン）後援

〇2022 年 11 月 3 日　支部学会誌『西日本ドイツ文学』第 34 号発行。掲載論文・書評等は以下のとおり。

論文

長尾　亮太郎 :「事物一切の有機的連関の概念」―フリードリヒ・シュレーゲルの『序説と論理学』―

進藤　良太：天上のものの「地上のやり方での解釈」―E.T.A.ホフマン『悪魔の霊液』における「偶然性」―

坂本　彩希絵：トーマス・マン作品の「ざわめき」の意味をめぐる試論

書評

フリードリヒ・シュレーゲル　著　武田利勝　訳：『ルツィンデ　他三篇』　胡屋　武志

マルジナリア

髙木　文夫：ヴェールトとドロンケ―生誕200年に寄せて―

栗山　次郎：独ソ合同ウラン鉱ヴィスムート―旧東ドイツの一断面―

報告

日本独文学会西日本支部　2021年度活動報告　竹岡　健一

○2022年11月26・27日　鹿児島大学にて日本独文学会西日本支部第74回総会・研究発表会を開催。参加者36名。

研究発表タイトルと発表者は以下のとおり。

1. ヴィーラント『ドン・シルヴィオの冒険』における語りの技法　木田綾子
2. 〈書物〉となった「一般草稿」―新編『ノヴァーリスの ABC ブック』(2022)と百科全書の構想　二藤拓人
3. マイスター・エックハルトにとっての「無」　石川充ユージン
4. 近代ドイツにおける動物観―釣りに表れた自然観と余暇意識―　田平廉太朗
5. 言葉と音の融和―E.T.A. ホフマンのオペラ台本をめぐって―　池田奈央
6. 教訓なき寓意体系―ギュンター・グラス「蝸牛の日記から」再考　杵渕博樹
7. ヘルタ・ミュラー『呼び出し』　「言の葉」と化す路面電車をめぐって　小黒康正
8. 「ゲーテの民」にして「ヘルダーリンの民」―ゲオルゲ・クライスにおける Volk 概念について　益敏郎

○役員改選

支部長　竹岡健一（再任）

支部選出理事　堺雅志（再任）

編集委員長　胡屋武志

〇会員数（2022 年 10 月 1 日現在）：142 名

ドイツ語教育部会報告

1. 編集

1) 『ドイツ語教育』第 27 号を 2023 年 3 月 20 日に発行した（編集長：鷲巣由美子幹事）．第 27 号では特集「CEFR と CEFR 補遺版」が組まれ，1 本の論考が掲載された．また，編集委員会が定めるテーマについての意見を募るフォーラムのカテゴリーは，「協働学習」をテーマとし，3 名からの投稿があった．論文が 2 本，研究ノートが 3 本，実践報告が 2 本，開催報告が 1 本掲載された．

2. 部会長

1) 2022 年 8 月 14 日と 20 日に行われた第 24 回 Vertreter/-innenversammlung des IDV に柴田幹事とともに参加した．会議では，入会審査や活動報告などが行われた．
2) IDT 開催期間中の 2022 年 8 月 18 日に開催された Verbandspräsentation にて，柴田幹事，能登幹事，鈴木友美加会員とともに，教育部会の活動を紹介するポスターの掲示および『ドイツ語教育』の展示を行った．
3) 2022 年 9 月 24 日に開催された Goethe-Institut Tokyo 主催の専門家会議「ドイツ語教育の未来を拓く － 持続可能なドイツ語教育に向けて」において，「これからのドイツ語教師に求められるもの ー教職課程ドイツ語科指導法科目の現状と課題ー」と題し，基調講演を行った．

3. 企画

1) 2022 年 5 月 7 日（土）に Zoom にて教育部会主催講演会（16:40～18:10）を開催した．
   講演者：真嶋潤子　（大阪大学名誉教授，ケルン大学客員研究員）
   講演題目：「日本の外国語教育への「CEFR−CV（CEFR 補遺版）」のインパクト」
2) 2022 年 10 月 29 日（土）13:00～16:00 に Zoom にて第 2 回アイディア賞コンテストを開催した．南山大学，立教大学，中京大学，名古屋大学から 7 チームの応募があった．
3) 2022 年 12 月 3 日（土）13:00～16:00 に Zoom にてワークショップを開催した．
   講師：Lars Bauer（東洋大学）
   題目：Vorstellung, Vergleich und Verwendung von algorithmusbasierten (SRS)

Vokabellernapps

4) 2023 年 3 月 13 日（月）に第 10 回 JaF-DaF フォーラムを JaF-DaF Forum 実行委員会が主催，そして本部会が共催となり開催した.

4. 高等学校

1) 2022 年 6 月 12 日に，ゲーテ・インスティトゥート東京にて国際ドイツ語オリンピック参加者および PASCH の Jugendkurs 参加者向けのオリエンテーションが実施され，当該生徒および高等学校教員が参加した.

2) 2022 年 7 月 17 日（オンライン），18 日（ゲーテ・インスティトゥート東京にて対面）に，PASCH の Instagram ワークショップが開催され，生徒や教員が多数参加した.

3) 2022 年 7 月 25 日から 8 月 5 日まで，第 12 回国際ドイツ語オリンピックがハンブルクで開催された．日本からは 1 名の高校生が参加し，引率教員として高独研から出縄祐介氏が同行した.

4) 2022 年 10 月 30 日に，獨協大学にて「第 24 回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」が開催され，高独研から池谷尚美副会長が審査員を務めた.

5) 2022 年 12 月 22 日に，PASCH の企画として「Lehrermaterial HUEBER: „Beste Freunde“ und „Dabei“」というテーマで Zoom によるウェビナーが開催された．高独研も秋ゼミとしてこの企画に参加させていただいた.

5. 大学入試問題検討委員会

1) 独立行政法人大学入試センターからの依頼に基づき，大学入試問題 検討委員会は,「令和 5 年度大学入学共通テスト（ドイツ語）の試験問題に関する意見・評価」（本試験および追試験）を太田達也部会長の名義で作成し，2023 年 2 月 27 日付けで大学入試センターに提出した．評価書の作成は，太田達也部会長の他，野村幸宏幹事，田中雅敏幹事，牛山さおり，吉村暁子の各委員が担当した.

2) 2022 年日本独文学会春季研究発表会 1 日目と 2 日目に予定していた 2022 年度大学入試問題の展示は，コロナ禍で開催による会場の縮小により実施が困難となり，中止とした.

6. ドイツ語教員養成・研修講座

日本独文学会および東京ドイツ文化センターとの共催で開催されている「ドイツ語教員養成・研修講座」は，2021 年～2022 年期は，2022 年 9 月をもって終了した. 2022～2023 年期は 2022 年 10 月よりオンラインで開催されている.

参加者は 20 名である.

7. IDV

IDT（Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer）は，2025 年 7 月 28 日〜8 月 1 日にリューベックで開催されることとなった.

会員数（2023 年 3 月 22 日現在）は，正会員 422 名，準会員 74 名，賛助会員 9 団体の計 505 名／団体である.

（文責：境一三）

ドイツ語学文学振興会より

第 63 回ドイツ語学文学振興会賞選考について

第 63 回ドイツ語学文学振興会賞は，Info-Blatt 編集時において審査委員会で審議中です。審査結果が判明し次第，ドイツ語学文学振興会ウェブサイト（http://www.dokken.or.jp/foundation/）でお知らせする予定です。なお，授賞式は春季研究発表会初日（6 月 3 日）11 時 40 分（予定），学会会場にて開催いたします。多くの学会員の皆さんが参列し，受章を祝っていただきたく存じます。

なお，本賞の趣旨は日本国内における若手のドイツ語学文学研究者による優れた業績の発掘にあります。しかし近年『ドイツ文学』以外の研究誌に掲載された論文の応募が少なくなっており，授賞にふさわしい研究が埋もれていることが懸念されます。

そこで振興会としましては，日本独文学会会員からの積極的なご推薦をお願いしたく存じます。ご指導に当たられていたり，お知り合いでいらっしゃる若手研究者の優れた論文をお目にされましたら，是非ご推挙ください。

（文責：武井香織）

大学院 Germanistik 関係博士論文題目

2022 年 9 月 14 日から 2023 年 4 月 29 日までに本学会 HP の「博士学位取得情報登録フォーム」（https://www.jgg.jp/mailform/dsrtn/）に届け出があった情報を，執筆者ご本人の申告に基づき掲載します。

なお，申告済みの情報は下記 URL でご覧いただけます（検索欄への入力無しに「送信する」をクリックすると，全件表示されます）。

https://www.jgg.jp/mailform/prom/prom_src.php

※大学名および氏名は 50 音順です。
※掲載対象は本学会員の情報のみです。
※カッコ内は取得年を表します。

梅花女子大学

蚊野千尋：日本における「ハーメルンの笛吹き男」の受容
(2021)

広島大学

堀田明：Literarische Modernität und Formbewusstsein in der deutschsprachigen Erzählliteratur zu Beginn des 20. Jahrhunderts
(2023)

あとがき

「ニュースレター」2023 年春号（Info-Blatt 第 8 号）をお届けします。各種のご報告ならびにご案内をお寄せいただいた皆様，ありがとうございました。引き続き，学会内での情報共有に向けてご協力いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

庶務担当理事　高橋亮介

編集
一般社団法人 日本独文学会庶務委員会
井出 万秀（委員長）
大野 寿子（編集担当）　高橋 亮介（編集担当）　中野 英莉子（編集担当）
西尾 宇広（編集担当）　馬場 大介（編集担当）　藤縄 康弘（編集担当）

編集・発行
一般社団法人　日本独文学会
170–0005 東京都豊島区南大塚
3–34–6 南大塚エースビル603
電話03–5950–1147
振替00160–9–135018
E-Mail（メールフォーム）：
http://www.jgg.jp/mailform/buero/

ニュースレター2023 年春号
JGG-Info-Blatt / Frühling 2023
2023 年 4 月 30 日発行